地下鉄のホーム

6日夕方近く、名大から本山まで歩き、地下鉄のホームに向かった。すぐに来るはずの電車がなかなか来ない。そのうち「一社駅で人身事故のため運転停止」との放送が流れる。1時間近く椅子に座って待ったが、同じ放送ばかりだ。ホームが人で溢れてくる。「いらちな」性格であり、とにかく歩くことにした。

道路に出ると、多くの人が歩いていた。さながら「災害後」の風景のようだ。とくに星ヶ丘の方から、スマホを見ながら歩いてくる女子大生の姿が目に付いた。道路も渋滞しており、タクシーは満車状態だ。汗をかきながら40分近く歩き続けた。とにかく疲れたが、日頃の「まち歩き」の成果を感じることもできた。

翌朝の朝日新聞によると、「線路に中学生 はねられ死亡」とあった。列車が一社駅に近づいた際、ホーム先端の位置で線路上に立つ生徒を運転士が発見。非常ブレーキをかけ、警笛を鳴らしたが間に合わなかった。同駅にホーム柵はなかったという。6日は冬休み明け初日で生徒も登校したが、午前中に早退したという。「自殺」だとすると、本当に悲しい。いじめが原因で自殺した生徒が問題になったばかりだ。

生徒のことだけでなく、地下鉄のホーム、とりわけ安全面についても気になることが多い。名古屋市営地下鉄では「可動式ホーム柵」と呼ぶようだが、東山線の設置がこの3月までに完了する。本山駅まで済んでおり、一社駅は来月ぐらいのはずだ。地下鉄を待っていると、電車に吸い込まれる感じになることがあった。お年寄りや子ども連れなど、危険に感じる人も多かったと思う。とりわけホームが狭く、混雑する東山線が完成間近なので、ひと安心だ。

でも、名城・名港線は、数年後の完成予定だという。名城線本山駅（ここも狭い）も朝夕はかなり込みあい、危険すら感じる。設置の「優先順位」を変えるなど、なんとか早くできないものだろうか。

このホーム柵があれば、地下鉄での自殺はなくなるだろうか。写真のように、ホーム先端部分は低くなっており、線路に降りるのは容易だ。なにか「策」はないかと考えてしまう。ハードよりも、自殺を防ぐソフトな「対策」、生きることへの希望を持てる社会こそ求められる。

（2016年1月10日）